

平成27年度
事業報告書

学校法人 常葉学園

目 次

1. 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	5
(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等の状況	6
(5) 役員の概要	7
(6) 評議員の概要	8
(7) 教職員の概要	9

2. 事業の概要

(1) 重点事業計画の実施状況	1 0
(2) 管理・運営計画の実施状況	1 1
(3) 施設・設備整備計画の実施状況	1 2
(4) 教育活動計画の実施状況	1 6
(5) 理事会・評議員会開催状況、監事監査実施状況	2 5

3. 財務の概要

(1) 財務計画の実施状況	2 6
(2) 資金収支計算書	2 8
(3) 活動区分資金収支計算書	2 9
(4) 事業活動収支計算書.....	3 0
(5) 貸借対照表	3 1
(6) 主な財務比率比較	3 2
(7) 借入金の状況	3 3
(8) 寄付金の状況	3 3
(9) 補助金の状況	3 4

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本法人の建学の精神は、次に掲げるとおりです。

建 学 の 精 神

常葉学園は、学問の研究と人間の育成に限りない情熱を傾けられた日本史学の泰斗木宮泰彦先生によって、昭和二十一年に創立された。「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない。」とのゆるぎない信念のもとに、敢えて困難をも顧みず常葉学園の創立にあたられたのである。この教育の力に対する創立者の信頼と確信こそは、本学園の建学の精神の根本である。

創立者木宮泰彦先生は「万葉集」に見える聖武天皇の御製

橘は 実さへ 花さへ その葉さへ
枝に霜ふれど いや常葉の樹

に因んで学園を「常葉」と名づけ、その理想の姿を橘の瑞木に託された。霜雪に耐えてつねに青々とした葉を繁らせ、純白で香り高い花を咲かせ、豊かな黄金の実を結ぶ橘こそは、常葉学園の教育理念の象徴である。即ち、本学園の理想とする人間像は、美しい心情をもって、国家・社会・隣人を愛し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にもうち克ち、より高きを目指して学び続ける人間である。

百丈禅師のことは「一日作^なさざれば一日食^{くら}はず」を自戒として、日々研鑽を積まれた学園創立者木宮泰彦先生の生涯は、まさにこの建学の精神の具現であった。先生は順境に奢らず、逆境にめげず、常によりよき自己の実現のために、生涯にわたって真摯な努力を続けられた。この創立者の精神こそ常葉学園にかかわるすべてのものの心である。

(2) 沿革

昭和21年	6月	静岡女子高等学院創立
昭和22年	11月	静岡女子高等学院設置認可
昭和23年	2月	財団法人常葉学園設置認可
	4月	常葉中学校開校
昭和25年	12月	財団法人から学校法人へ組織変更認可
昭和26年	8月	静岡女子高等学院を高等学校として設置認可
	10月	静岡女子高等学院を常葉高等学校に名称変更認可
昭和27年	4月	常葉高等学校（普通科）開校
昭和28年	7月	各種学校たる静岡女子高等学院廃止認可
昭和38年	4月	橘高等学校開校
昭和40年	4月	橘中学校開校
昭和41年	4月	常葉女子短期大学（国文科、保育科）開学 常葉女子短期大学附属とこは幼稚園開園
昭和43年	4月	常葉女子短期大学に音楽科設置

昭和45年	4月	常葉女子短期大学に専攻科（保育専攻、音楽専攻）設置 常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園開園
昭和46年	4月	橘高等学校に音楽科設置
昭和47年	4月	常葉女子短期大学に英文科、美術・デザイン科設置 常葉短大附属菊川高校（普通科、美術・デザイン科）開校
昭和53年	4月	常葉学園橘小学校開校 学園内各校（園）の名称変更 ○常葉女子短期大学→常葉学園短期大学 ○常葉女子短期大学附属とこは幼稚園→常葉学園短期大学附属とこは幼稚園 ○常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園→常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園 ○常葉高等学校→常葉学園高等学校 ○常葉中学校→常葉学園中学校 ○橘高等学校→常葉学園橘高等学校 ○橘中学校→常葉学園橘中学校 ○常葉短大附属菊川高校→常葉学園菊川高等学校
昭和55年	4月	常葉学園大学（教育学部初等教育課程）開学
昭和56年	4月	常葉学園橘小学校を常葉学園大学教育学部附属橘小学校に名称変更
昭和58年	4月	常葉学園橘高等学校に英数科設置
昭和59年	4月	常葉学園大学に外国語学部（英米語学科、スペイン語学科）設置
昭和63年	4月	常葉学園浜松大学（経営情報学部経営情報学科）開学
平成2年	4月	常葉学園富士短期大学（商学科、国際教養科）開学
平成5年	4月	常葉学園短期大学専攻科（保育専攻、音楽専攻）が学位授与機構から認定専攻科の認定を受ける
平成6年	4月	常葉学園浜松大学に国際経済学部（国際経済学科）設置 常葉学園短期大学専攻科（美術・デザイン専攻）[学位授与機構認定専攻科]設置
平成7年	4月	常葉学園短期大学国文科を国語国文科に英文科を英語英文科に名称変更するとともに専攻科国語国文専攻〔学位授与機構認定専攻科〕及び留学生別科設置 学校法人浜松常葉学園が発足し、常葉情報専門学校開校
平成8年	4月	常葉学園大学大学院国際言語文化研究科（国際教育専攻、英米言語文化専攻）設置 常葉学園浜松大学大学院経営学研究科（経営学専攻）設置 常葉学園医療専門学校（理学療法学科、作業療法学科）開校 常葉情報専門学校を常葉環境情報専門学校に名称変更
平成10年	4月	常葉学園大学教育学部に生涯学習学科設置

		常葉学園浜松大学を浜松大学に名称変更
平成12年	4月	富士常葉大学（流通経済学部流通経済学科、環境防災学部環境防災学科）開学
平成13年	4月	浜松大学経営情報学部情報ネットワーク学科設置 常葉学園短期大学国語国文科を日本語日本文学科と名称変更
	10月	常葉学園富士短期大学廃止認可
平成14年	4月	常葉学園大学に造形学部（造形学科）設置
平成15年	4月	常葉学園菊川中学開校 常葉学園短期大学留学生別科廃止
平成16年	3月	常葉学園短期大学美術・デザイン科及び専攻科(美術・デザイン専攻)廃止
	4月	常葉学園大学教育学部に心理教育学科、外国語学部グローバルコミュニケーション学科設置
平成17年	4月	浜松大学に健康プロデュース学部（健康栄養学科、こども健康学科、心身マネジメント学科）及び留学生別科設置 常葉学園医療専門学校に鍼灸学科、柔道整復学科設置 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校（理学療法学科）開校
平成18年	4月	富士常葉大学に大学院環境防災研究科、保育学部（保育学科）、留学生別科を設置するとともに流通経済学部（流通経済学科）を総合経営学部（総合経営学科）に名称変更
平成19年	4月	浜松大学にビジネスデザイン学部（経営情報学科、サービスと経営学科）設置
平成20年	3月	常葉学園大学外国語学部スペイン語学科廃止
	4月	常葉学園大学大学院に初等教育実践研究科（初等教育高度実践専攻）設置 学校法人常葉学園が学校法人浜松常葉学園を吸収合併
	9月	常葉環境情報専門学校廃止認可
平成21年	4月	浜松大学保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）設置 浜松大学大学院健康科学研究科設置
平成22年	3月	浜松大学経営情報学部（経営情報学科・情報ネットワーク学科）及び国際経済学部（国際経済学科）廃止
	4月	浜松大学健康プロデュース学部（健康柔道整復学科、健康鍼灸学科）設置 富士常葉大学社会環境学部（社会環境学科）設置
平成24年	8月	常葉学園高等学校全日制課程家庭科廃止認可、常葉学園医療専門学校廃止認可
平成25年	3月	富士常葉大学環境防災学部廃止
	4月	大学統合等に伴う学校名の変更 ○常葉学園大学→常葉大学 ○常葉学園短期大学→常葉大学短期大学部 ○常葉学園大学教育学部附属橘小学校

→常葉大学教育学部附属橘小学校

○常葉学園短期大学附属とこは幼稚園

→常葉大学短期大学部附属とこは幼稚園

○常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園

→常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園

常葉大学に学部、大学院研究科及び別科を設置

○法学部法律学科

○健康科学部看護学科・同静岡理学療法学科

○経営学部経営学科

○健康プロデュース学部健康栄養学科・同こども健康学科・同心身マネジメント学科・同健康鍼灸学科・同健康柔道整復学科

○保健医療学部理学療法学科・同作業療法学科

○社会環境学部社会環境学科

○保育学部保育学科

○健康科学研究科健康栄養科学専攻・同臨床心理学専攻

○環境防災学研究科環境防災専攻

○留学生別科

平成26年	3月	浜松大学留学生別科及び富士常葉大学留学生別科廃止
	6月	富士常葉大学大学院廃止認可
	10月	常葉学園橘高等学校全日制課程音楽科廃止認可
平成27年	3月	浜松大学大学院健康科学研究科廃止

(3) 設置する学校・学部・学科等

(平成27年5月1日現在)

学校名	開校年月	研究科・学部・課程等	専攻・学科・科	開設年月	摘要
常葉大学	昭和55年4月	教育学部	初等教育課程	昭和55年4月	
			生涯学習学科	平成10年4月	
			心理教育学科	平成16年4月	
		外国語学部	英米語学科	昭和59年4月	
			グローバルコミュニケーション学科	平成16年4月	
		造形学部	造形学科	平成14年4月	
		法学部	法律学科	平成25年4月	
		健康科学部	看護学科	平成25年4月	
			静岡理学療法学科	平成25年4月	
		経営学部	経営学科	平成25年4月	
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成25年4月	
			こども健康学科	平成25年4月	
			心身マネジメント学科	平成25年4月	
			健康鍼灸学科	平成25年4月	
			健康柔道整復学科	平成25年4月	
		保健医療学部	理学療法学科	平成25年4月	
			作業療法学科	平成25年4月	
		社会環境学部	社会環境学科	平成25年4月	
		保育学部	保育学科	平成25年4月	
			留学生別科	平成25年4月	
常葉大学大学院	平成8年4月	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	平成 8年4月	
			国際教育専攻	平成 8年4月	
		初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	平成20年4月	
		健康科学研究科	健康栄養科学専攻	平成25年4月	
			臨床心理学専攻	平成25年4月	
浜松大学※1	昭和63年4月	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	平成19年4月	
			サービスと経営学科	平成19年4月	
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成17年4月	
			こども健康学科	平成17年4月	
			心身マネジメント学科	平成17年4月	
			健康鍼灸学科	平成22年4月	
			健康柔道整復学科	平成22年4月	
		保健医療学部	理学療法学科	平成21年4月	
			作業療法学科	平成21年4月	
浜松大学大学院※1	平成8年4月	経営学研究科	経営学専攻	平成 8年4月	
富士常葉大学※1	平成12年4月	総合経営学部	総合経営学科	平成12年4月	
		社会環境学部	社会環境学科	平成22年4月	
		保育学部	保育学科	平成18年4月	
常葉大学短期大学部	昭和41年4月		日本語日本文学科	昭和41年4月	
			英語英文科	昭和47年4月	
			保育科	昭和41年4月	
			音楽科	昭和43年4月	
		専攻科	国語国文専攻	平成 7年4月	
			保育専攻	昭和45年4月	
			音楽専攻	昭和45年4月	
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校※1	平成17年4月	医療専門課程	理学療法学科	平成17年4月	
常葉学園高等学校	昭和27年4月	全日制課程	普通科	昭和27年4月	
常葉学園橘高等学校	昭和38年4月	全日制課程	英数科	昭和58年4月	
			普通科	昭和38年4月	
常葉学園菊川高等学校	昭和47年4月	全日制課程	普通科	昭和47年4月	
			美術・デザイン科	昭和47年4月	
常葉学園中学校	昭和23年4月				
常葉学園橘中学校	昭和40年4月				
常葉学園菊川中学校	平成15年4月				
常葉大学教育学部附属橘小学校	昭和53年4月				
常葉大学短期大学部附属ところは幼稚園	昭和41年4月				
常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園	昭和45年4月				

※1 学生募集停止、平成27年度をもって廃止（平成28年度 廃止手続き）

(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等数の状況

(平成27年5月1日現在 単位：人)

学校名	研究科・学部・課程等	専攻・学科・科	入学定員	収容定員	現 員	摘要
常葉大学	教育学部	初等教育課程	110	440	579	
		生涯学習学科	80	330	388	
		心理教育学科	80	330	320	
	外国語学部	英米語学科	100	410	400	
		グローバルコミュニケーション学科	70	290	247	
	造形学部	造形学科	80	330	384	
	法学部	法律学科	160	480	539	
	健康科学部	看護学科	80	240	246	
		静岡理学療法学科	60	180	198	
	経営学部	経営学科	300	920	815	
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	245	257	
		こども健康学科	50	155	172	
		心身マネジメント学科	110	335	334	
		健康鍼灸学科	30	90	65	
		健康柔道整復学科	30	90	87	
	保健医療学部	理学療法学科	40	120	129	
		作業療法学科	40	120	118	
	社会環境学部	社会環境学科	100	305	296	
	保育学部	保育学科	80	245	280	
		留学生別科	20	20	4	
常葉大学大学院	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	10	20	1	
		国際教育専攻	10	20	3	
	初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	20	40	20	
	健康科学研究科	健康栄養科学専攻	5	10	1	
		臨床心理学専攻	10	20	22	
	環境防災研究科	環境防災専攻	10	20	5	
浜松大学※1	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	－	145	56	
		サービスと経営学科	－	135	79	
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	－	90	70	
		こども健康学科	－	80	50	
		心身マネジメント学科	－	125	80	
		健康鍼灸学科	－	30	22	
		健康柔道整復学科	－	30	32	
	保健医療学部	理学療法学科	－	40	47	
		作業療法学科	－	40	33	
浜松大学大学院※1	経営学研究科	経営学専攻	－	15	1	
富士常葉大学※1	総合経営学部	総合経営学科	－	205	117	
	社会環境学部	社会環境学科	－	140	72	
	保育学部	保育学科	－	85	85	
常葉大学短期大学部		日本語日本文学科	80	160	97	
		英語英文科	80	160	64	
		保育科	200	400	406	
		音楽科	55	110	59	
	専攻科	国語国文専攻	20	40	9	
		保育専攻	20	40	27	
		音楽専攻	20	40	35	
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校※1	医療専門課程	理学療法学科	－	80	48	
常葉学園高等学校	全日制課程	普通科	240	720	611	
常葉学園橘高等学校	全日制課程	英数科	60	220	145	※2
		普通科	340	1,180	941	※3
常葉学園菊川高等学校	全日制課程	普通科	315	945	817	
		美術・デザイン科	60	180	132	
常葉学園中学校			80	240	117	
常葉学園橘中学校			90	270	181	
常葉学園菊川中学校			60	180	183	
常葉大学教育学部附属橘小学校			60	360	301	
常葉大学短期大学部附属とこは幼稚園			90	240	225	
常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園			86	230	227	

※1 学生募集停止、平成27年度をもって廃止（平成28年度 廃止手続き）

※2 平成27年度入学定員変更 80人→60人

※3 平成27年度入学定員変更 420人→340人

(5) 役員の概要

理事 10 人（定数 10 人以上 13 人以内）

監事 4 人（定数 2 人以上 5 人以内）

（平成 27 年 4 月 1 日現在）

区 分	氏 名	常勤・非常勤別	摘 要
理 事 長 理 事	木 宮 健 二	常 勤	平成14年4月理事就任 平成14年4月理事長就任 平成19年4月富士常葉大学学長就任（平成25年3月迄） 平成25年4月常葉大学短期大学部学長就任
常務理事 理 事	木 宮 岳 志	常 勤	平成19年5月理事就任 平成21年4月常務理事就任 平成21年4月副理事長就任（平成25年3月迄） 平成22年4月常葉学園短期大学学長就任（平成25年3月迄）
常務理事 理 事	佐々木 弘	常 勤	平成25年4月理事就任 平成25年4月常務理事就任
常務理事 理 事	野 中 雅 夫	常 勤	平成27年4月理事就任 平成27年4月常務理事就任
理 事	西 頭 徳 三	常 勤	平成23年4月監事就任（平成25年3月迄） 平成25年4月常葉大学学長就任 平成25年4月理事就任
理 事	土 屋 義 人	常 勤	平成24年4月常葉学園菊川中・高等学校校長就任 平成25年4月理事就任
理 事	吉 田 昌 弘	常 勤	平成27年4月常葉学園橘中・高等学校校長就任 平成27年4月理事就任
理 事	工 藤 智 規	非常勤	平成26年4月常葉学園学事顧問就任 平成27年4月理事就任
理 事	神 野 建 二	非常勤	平成23年4月理事就任〔東海澱粉株式会社 代表取締役会長〕
理 事	北 村 敏 廣	非常勤	平成23年4月理事就任〔株式会社静岡新聞社 代表取締役専務〕
監 事	水 島 和 夫	非常勤	平成25年4月監事就任〔元国際医療福祉大学参与〕
監 事	阿 部 浩 三	非常勤	平成25年4月監事就任〔臨済寺住職〕
監 事	齋 藤 安 彦	非常勤	平成21年4月監事就任〔弁護士〕
監 事	狩 野 義 之	非常勤	平成25年4月監事就任〔元常葉学園審査監、元常葉学園事務局長〕

(6) 評議員の概要

評議員40人（定数40人以上47人以内）

（平成27年4月1日現在）

氏 名	在任年月	主 な 現 職 等
西 頭 徳 三	2年	常葉大学学長（浜松大学・富士常葉大学学長併任）、理事
木 宮 健 二	13年	常葉大学短期大学部学長、理事長
岡 本 徹	2年	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校校長
谷 野 純 夫	新任	常葉学園中・高等学校校長
吉 田 昌 弘	新任	常葉学園橘中・高等学校校長、理事
土 屋 義 人	3年	常葉学園菊川中・高等学校校長、理事
柴 田 幸 洋	3年	常葉大学教育学部附属橘小学校校長
堀 則 雄	2年	常葉大学短期大学部附属とは幼稚園園長 常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園園長
山 崎 正	2年	常葉大学副学長（静岡キャンパス）
鈴 木 治	4年	常葉大学副学長（浜松キャンパス）
稲 葉 光 彦	9年	常葉大学副学長（富士キャンパス）
鈴 木 薫	7年	常葉大学入学センター長
小田切 真	2年	常葉大学教務部長
猿 田 真 嗣	新任	常葉大学学生部長
田 中 誠 一	2年	常葉大学キャリアサポートセンター長
畑 隆	6年	常葉大学図書館長
小 田 寛 人	1年	常葉大学短期大学部学生部長
木 宮 岳 志	7年11か月	常葉学園本部事務局長、理事
佐々木 弘	2年	常葉学園本部企画部長、理事
野 中 雅 夫	新任	常葉大学事務局長、理事
勝 俣 元 雅	30年	常葉学園大学第1回卒、常葉大学教職大学院主幹
池 村 俊 典	4年	浜松大学第1回卒
金 森 光 弘	新任	富士常葉大学第1回卒
稲 川 直 子	6年	常葉学園短期大学第2回卒
小 澤 美佐子	14年	常葉学園中・高校第13回卒
村 上 信 也	10年	常葉学園橘中・高校第7回卒
伊 藤 元 久	15年	常葉学園菊川中・高校第6回卒
大 長 秀 江	新任	常葉大学後援会静岡
矢 部 正 則	6年	常葉大学後援会浜松
三 澤 賢 治	10年	常葉大学後援会富士
萩 野 義 明	2年	常葉大学短期大学部後援会OB会
前 畑 謙 次	6年	常葉学園中・高校PTA
山 田 誠	10年	常葉学園橘中・高校第15回卒、常葉学園橘中・高校OB後援会
阿 南 忠 士	新任	常葉学園菊川中・高校PTA
宮 川 勇	2年	スズキ株式会社元顧問
神 野 建 二	2年	東海澱粉株式会社代表取締役会長、理事
北 村 敏 廣	2年	株式会社静岡新聞社代表取締役専務、理事
宮 坂 広 志	2年	静岡ガス株式会社取締役専務執行役員
望 月 律 子	2年	社団法人静岡県看護協会会長
工 藤 智 規	新任	常葉学園学事顧問、理事

(7) 教職員の概要

(平成27年5月1日現在 単位：人)

		常葉学園本部	常葉大学 (静・浜・富C)	浜松大学	富士常葉大学	常葉大学短大部	常葉高等学校	常葉中学校
教員	本務	0	308	20	8	42	35	10
	兼務	0	307	13	17	145	25	12
職員	本務	42	101	7	5	13	4	1
	兼務	31	44	3	5	6	1	0

		橘高等学校	橘中学校	菊川高等学校	菊川中学校	橘小学校	とこは幼稚園	たちばな幼稚園
教員	本務	60	15	50	13	25	12	12
	兼務	45	7	37	8	18	4	6
職員	本務	4	1	5	1	1	1	1
	兼務	6	4	8	1	1	0	0

		静岡リハ専	常葉リハ病院	総合計
教員	本務	5	0	615
	兼務	0	0	644
職員	本務	1	121	309
	兼務	1	30	141

(注) 本務者の平均年齢は、教員47.1歳 職員は41.0歳である。

2. 事業の概要

(1) 重点事業計画の実施状況

平成27年度の重点事業計画の策定にあたっては、私立学校を取り巻く現況を分析・把握したうえで、個々の学校が、個性や特色を最大限生かした教育研究活動を推進できるよう十分配慮しました。

このうち、法人のガバナンス体制の再構築及び大学のガバナンス改革の推進、大学統合に伴い大学設置・学校法人審議会から付された留意事項への対応、短期大学部の学科再編計画の策定の3事業につきましては、前年度に引き続き最優先事項として取り組んだほか、浜松大学・大学院、富士常葉大学及び常葉学園静岡リハビリテーション専門学校の廃止に向けた環境整備の推進、橘中学・高等学校校舎改築工事の推進等、8つの重点事業計画を推進いたしました。

①学園内各校における中長期計画の検討

年度当初に将来構想検討委員会（委員長＝理事長）を設置し、本法人が設置する学校（法人本部含む）における将来構想（中期・長期）に関する基本的事項について検討に着手しました。以後6回、およそ10カ月にわたって検討を重ね、本年2月に学園の長期ビジョンと各所属の中期計画案をとりまとめ、常務理事会に報告しました。常務理事会では、計画案を尊重すべきものとし、委員会の原案どおり長期ビジョンと中期計画を決定し、3月に開催した理事会・評議員会に報告しました。

②法人のガバナンス体制の再構築及び大学のガバナンス改革の推進

法人のガバナンス体制の再構築については、将来構想検討委員会の中に置かれた学校法人分科会において、強化のための制度的方法について14回にわたって検討を重ねました。その結果、目指すべきガバナンス改革の方向性として「権限・責任の適切な委任」「法人本部と学校現場との役割関係の明確化」「役員と教職員の意識改革の必要性」の3点を示唆し、提言をとりまとめました。

また、大学・短期大学部のガバナンス改革の推進については、学長のリーダーシップのもとで戦略的に大学を運営するガバナンス体制の構築を目的として改正した学則を4月から施行し、ガバナンス改革の推進に努めるとともに、統合効果を効果的に発揮するための諸施策（大学改革フォーラム等）を組織的に実施しました。

③大学統合に伴う留意事項への対応

平成24年11月の認可時（大学設置分科会関係）には、留意事項が37件、その他意見が14件付されておりましたが、統合初年度（平成25年度）から重点的に是正に努めた結果、平成26年度（平成27年2月通知）の設置計画履行状況等調査においては、改善意見が6件とその他意見が1件と著しく改善しました。本年度においても引き続き是正作業を進めた結果、平成27年度（平成28年3月通知）において改善意見が5件まで減少し、さらに改善が進みました。

④浜松大学・大学院及び富士常葉大学の廃止に向けた環境整備（常葉大学・大学院への完全移行）の推進

卒業年次生の単位修得状況を正確に把握し、卒業が危ぶまれる学生に対しては、様々な方策（面

接指導、補講、追加履修、追加開講等）を講じ、全学挙げてサポートに努めました。それでもなお卒業が危ぶまれる学生に対しては、常葉大学への転入学の道筋を説明して理解を得るとともに、転入学により不利益を被ることのないよう特例措置（単位の読み替え、学納金等）を講ずることも決定しました。その結果、浜松大学・同大学院、富士常葉大学は年度末をもって在學生がいなくなったため計画どおり廃止することとし、所定の手続きを経て平成28年度中に廃止が認可される見通しです。

⑤常葉大学短期大学部の学科再編計画の策定

将来構想検討委員会の高等教育分科会（短大部ワーキンググループ）において検討し、中間報告において方向性を示しました。内容には、日本語日本文学科（専攻科含む）及び英語英文科の廃止も含めた再編、保育科の定員減・キャンパス移転及び専攻科の廃止、音楽科（専攻科含む）のキャンパス移転のほか、短大部全体としては校舎改築計画策定の取りやめが盛り込まれました。本年2月の最終報告においては、日本語日本文学科（専攻科含む）及び英語英文科の存廃については、（平成29年度の）学生募集の見通しがつき次第、平成28年度中に判断することとしました。

⑥常葉学園リハビリテーション専門学校の廃止に向けた環境整備の推進

卒業のためのキーポイントであった4年次の臨床実習（必修科目）は、該当者全員が所定の実習時間をクリアし、3月をもって在學生全員が卒業しました。このことにより同校は計画どおり廃止することとし、所定の手続きを経て平成28年度中に廃止が認可される見通しです。

なお、同校の施設・設備は、常葉大学健康科学部静岡理学療法学科の施設・設備として引き継がれ、今後も有効活用してまいります。

⑦橋中・高等学校校舎改築工事の推進

平成27年10月7日に起工式を行い、同27日に着工しました。平成28年11月には、新校舎・体育館等が完成する予定となっています。新校舎等の完成後は現校舎を解体して校舎跡地にグラウンドの造成工事（人工芝化）を行い、平成29年12月には工事が完了する見込みとなっています。

⑧学校法人会計基準の変更に伴う適切な会計処理

学校法人会計基準の一部改正に伴い、大幅に変更された収支計算書の様式や勘定科目の記載方法に対応するため、昨年度のうちに関係する規則等の改定や会計処理システムの改修を進めていたこともあり、平成27年度当初予算から新基準に対応した予算編成を行ったほか、新基準に適合した的確な会計処理・決算処理に努めました。

（2）管理運営計画の実施状況

①ガバナンス改革

（1）重点事業計画の実施状況中、「②法人のガバナンス体制の再構築及び大学のガバナンス改革の推進」参照。

②コンプライアンスの遵守

将来構想検討委員会の中に置かれた学校法人分科会において、基本方針について8回にわたって検討しました。その結果、教職員に先例遵守、現実対応重視の意識が強いため、法令や法人の規程

等を意識して業務を遂行する姿勢が弱いことを指摘。「倫理・行動規範の策定」「解釈の統一性を図るためのコンメンタールの整備」「業務プロセスの分かるマニュアルの作成」等の課題について引き続き6回にわたって検討を重ね、本年2月に基本計画案をまとめ、委員会に報告しました。

③自己点検・評価、第三者評価の推進

大学においては平成29年度、教職大学院については平成28年度の第三者評価の受審に向けて準備作業に着手したほか、短大部では昨年度受審した第三者評価で指摘された事項について改善策を検討しました。また、教育活動の継続的な質の保証を図るとともに自主的な改革・改善を進めるため、すべての学校で自己点検・評価を実施しました。

このうち、常葉大学では平成25年度及び26年度の自己点検・評価を実施し、報告書にとりまとめたほか、有識者による第三者評価も実施しました。また、短大部では新たに「研究倫理規程」「動物実験に関する規程」「遺伝子組換え実験安全管理規程」を定めました。

④監査機能の強化

本法人では、従来から他の法人に先駆けて監事、監査法人（公認会計士）、法人監査部による三様監査を実施しております。監事の主たる職務は、法人における業務監査及び財産状況の監査であります。職務をより正確・円滑に遂行するためにも学園内各校における教育研究活動、社会貢献活動、ガバナンスの状況等、多方面にわたる情報収集や分析に積極的に取り組み、引き続き三者の協力のもとで監査の質の向上と効率化に努め、実効性の高い監査が行われるよう努めました。

（３）施設・設備整備計画の実施状況

①主要事業

より充実した教育研究活動の実現のため、学生・生徒等の学習ニーズの多様化や学校を取り巻く様々な社会環境の変化に的確に対応できる施設・設備整備事業を実施し、教育環境の整備・充実に取り組みました。

平成27年度は、常葉学園施設整備（改築）中期計画に基づき、橘中学校・高等学校校舎等改築工事に着手するとともに、常葉リハビリテーション病院に併設する通所リハビリテーション建設のための設計策定に取り掛かりました。また、静岡市内に常葉大学及び短期大学部の新校舎建設のための用地を取得しました。そのほか、各校の施設・設備の改修、更新等の事業を実施しました。

主な整備事業は次のとおりです。

○ 平成27年度主要事業

* 常葉大学静岡キャンパス

菊川校舎（学生会館）屋上防水改修工事

瀬名校舎情報教育支援パソコン等整備（5年リース）

水落校舎教材・教育研究備品等整備（5年リース）

水落校舎1号館改修に伴う機器更新・機能訓練室移設

* 常葉大学浜松キャンパス

2号館トイレ改修工事

3号館・本館玄関屋上防水工事

通学バス購入（2台更新）

インターネット関連設備改修工事

給水用井戸設備等改修工事

半田山校舎移転に伴う浜松キャンパス改修工事等

*** 常葉大学富士キャンパス**

教育研究機器備品整備（分析器1台）

*** 橘中学校・高等学校**

校舎等改築工事（平成27年10月工事着手）

*** 橘小学校**

パソコン教室整備

*** 常葉リハビリテーション病院**

通所リハビリテーション施設整備（用地取得、設計等）

*** 法人本部**

学校用地取得（静岡市駿河区弥生町）

会計処理システムサーバー更新（5年リース）

(2) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりです。

(平成28年3月31日現在)

施設名・所在地		施設等		面積等	帳簿価格	備考
常葉大学（静岡キャンパス）		校地		53,592 m ²	2,222,143 千円	本館、1号館、2号館、 3号館、水落校舎、 サテライトビル
(静岡市)		校舎等	6棟	40,175 m ²	4,148,252 千円	
(菊川市)		校地		11,524 m ²	160,665 千円	
		校舎等	3棟	9,184 m ²	561,818 千円	
(島田市)		校舎等	1棟	639 m ²	60,421 千円	川根実習施設
常葉大学（浜松キャンパス）		校地		205,008 m ²	2,812,688 千円	本館、1号館、2号館、 3号館、5号館、トコホール、 7号館、8号館、半田山校舎
(浜松市)		校舎等	14棟	40,708 m ²	4,648,525 千円	
常葉大学（富士キャンパス）		校地		88,552 m ²	1,942,056 千円	1号館、2号館、3号館、体育館
(富士市)		校舎等	6棟	20,642 m ²	2,199,515 千円	
常葉大学短期大学部		校地		42,848 m ²	1,579,607 千円	本館、2号館、3号館、 4号館、5号館、6号館、 7号館、8号館、T号館
(静岡市)		校舎等	11棟	15,149 m ²	823,742 千円	
常葉学園中・高等学校		校地		43,162 m ²	2,480,553 千円	本館、南館、常葉会館
(静岡市)		校舎等	3棟	9,715 m ²	1,711,398 千円	
常葉学園橘中・高等学校		校地		46,020 m ²	369,472 千円	本館、中学棟、美術棟、 新館、和敬庵、尚志館、 行之館、橘志館
(静岡市)		校舎等	9棟	18,349 m ²	528,376 千円	
常葉学園菊川中・高等学校		校地		73,920 m ²	751,815 千円	本館、東館、北館、 南館、新館、光葉館、 美術館、自修館
(菊川市)		校舎等	10棟	15,314 m ²	683,087 千円	
橘小学校		校地		13,703 m ²	849,610 千円	本館、わくわくホール
(静岡市)		校舎等	2棟	4,113 m ²	139,681 千円	
とこは幼稚園		校地		2,500 m ²	171,875 千円	
(静岡市)		園舎	1棟	1,361 m ²	180,847 千円	
たちばな幼稚園		校地		2,283 m ²	231,910 千円	
(静岡市)		園舎	1棟	1,520 m ²	170,098 千円	
静岡リハビリテーション専門学校		校舎等	1棟	2,100 m ²	219,133 千円	
(静岡市)						
常葉リハビリテーション病院		校地		5,777 m ²	106,620 千円	
(浜松市)		病院	1棟	4,449 m ²	799,181 千円	

施設名・所在地		施設等		面積等	帳簿価格	備考
学園本部		土地		47,894 m ²	4,180,888 千円	学生寮、研修センター、 スイミングスクール、 常葉大学校舎用地
(静岡市)		寄宿舍等	4棟	6,560 m ²	261,494 千円	
(浜松市)		土地		62,338 m ²	825,404 千円	学生寮、三ヶ日セミナーハウス
		寄宿舍等	2棟	1,256 m ²	155,577 千円	
(伊豆の国市)		土地		334 m ²	17,000 千円	
合 計		土地		699,456 m ²	18,702,308 千円	
		建物		191,233 m ²	17,291,143 千円	
					35,993,452 千円	

② 主な施設設備の取得又は処分の状況

主な施設設備の増減は次のとおりです。

ア) 施設の取得

- ・常葉大学静岡キャンパス新校舎用地
取得面積：43,175.8 m²

イ) 施設の処分

- ・特になし

ウ) 施設設備の用途変更

- ・常葉学園静岡リハビリテーション専門学校の校舎の一部を常葉大学へ用途変更
(理由) 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校理学療法学科を常葉大学健康科学部へ
発展改組したことに伴う。

(年次進行)

		旧	新	増減
校 舎	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	2,867m ²	2,100m ²	▲ 767 m ²
	常葉大学 静岡キャンパス	49,230m ²	49,997m ²	+ 767 m ²

(4) 教育活動計画の実施状況

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあっては人材こそ財産であり、次世代を担う人間を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、建学の精神や教育理念に則った特色ある教育研究活動を実践しつつ、社会や時代の要請に対応した新たな教育研究にも取り組むことによって理解と評価を得て、さらに安定した教学運営を行うことを目指し、平成27年度は以下に掲げる教育事業を中心に推進しました。

○ 大学・大学院、短期大学、専門学校

〈常葉大学・大学院〉

i. 大学改革の推進

- * 授業改善（AP－アドミSSION・ポリシー、CP－カリキュラム・ポリシー、DP－デュプロマ・ポリシーの見直しとカリキュラム改善の取り組み、教養教育の継続的な見直し等）、大学改革フォーラムの開催（2回）、大学広報の充実、連携のとれた大学運営等を通じて大学改革を推進しました。

ii. 地域連携の推進

- * 年度当初に地域連携推進委員会を設置し、常葉大学地域連携・交流推進基本方針を策定したほか、平成31年度を目標として社会連携センター（仮称）を開設すべく準備作業を進めました。

また、地方自治体との地域連携の推進を図るため、松崎町、掛川市、藤枝市との包括連携協定を締結しました。

iii. 学生支援の充実

- * 学生の持つ様々な悩みを受け付け、適切な窓口に誘導する学生支援センター機能の充実、障害のある学生の受け入れ対策、キャリアサポートセンターの機能強化等を通じて学生支援の充実に努めました。

〈静岡キャンパス・大学院〉

i. 外国語学部の改善・改革

- * 学部・学科再編に向けてワーキンググループを発足させ、「外国語学部改組・再編基本計画」をとりまとめました。

ii. 法学部の体制強化

- * 新入生には公務員ガイダンスを実施し、卒業後の有力な進路の一つである公務員への意識づけを行いました。さらに、公務員試験対策として、知能・教養・専門・小論文各分野の講座と模試を実施したほか、警察と消防の採用試験に特化した講座も開催するなど、支援体制の強化を図っています。

iii. 障害者受け入れ態勢の検討

- * 平成28年度から施行される障害者差別解消法（国公立大学は義務、私立大学は努力義務）に向けて共同研究及びプロジェクトを立ち上げ、平成28年2月に実施したシンポジ

ウムで発表しました。

〈浜松キャンパス・浜松大学・大学院〉

i. 学生確保

- * 全学部・全学科・全研究科で入学定員を確保することを最重要課題とし、募集活動に取り組みましたが、残念ながら目標達成とはなりませんでした。しかし、進学校や中堅校からの入学者や志願者が年々増加傾向にあることから、今後とも入学者の質的転換を図りながら定員確保につなげてまいります。

ii. 学士教育の充実、浜松大学・大学院の廃止に向けた環境整備

- * 学士教育の充実については、カリキュラム改善プロジェクトと連携した授業改善を進めたほか、浜松大学・大学院の廃止に向けた環境整備については、4年生の単位修得状況を正確に把握し、卒業が危ぶまれる学生に対しては、様々な方策（面接指導、補講、追加履修、追加開講等）を通じてサポートに努めました。それでもなお卒業が難しい学生に対しては、常葉大学への転入学の道筋を説明して理解を得るとともに、転入学により不利益を被ることのないよう特例措置（単位の読み替え、学納金等）を講ずることも決定しました。その結果、年度末をもって在学生在がなくなったため計画どおり廃止することとし、所定の手続きを経て平成28年度中に廃止が認可される見通しです。

iii. キャリア支援体制の強化

- * ハローワークとの連携強化による充実した求人情報の提供、キャリアカウンセラーを活用したキャリア指導、就職試験・国家試験対策の充実等を通じて、学生に対する充実したキャリア支援を行いました。

〈富士キャンパス・富士常葉大学〉

i. 大学統合に伴う諸課題への対応

- * 経営学部は、距離が離れている富士キャンパスと浜松キャンパスの間の交流を進めるため、教授会は年3回全員が一堂に会して実施したほか、学生間の交流行事も年2回行いました。社会環境学部は、入試説明会、オープンキャンパス、高校訪問時等あらゆる機会を通じて教育内容の周知に努めました。保育学部は、完成年度後のカリキュラム改革に合わせて授業科目の見直しを行っています。

ii. 少人数教育による人間力の向上

- * 人間力セミナー（1年次）では、大学生活を主体的・計画的に行う能力の基礎となる「人間力」を、教養セミナー（2年次）では、物事を客観的事実に基づく「論理的思考力」を、ふじとこ未来塾（3年次）では、地域が抱える諸課題を的確に捉えて改善に導く「創意工夫能力」を、少人数教育の実践を通じて涵養しています。

iii. 富士常葉大学の廃止に向けた環境整備

- * 4年生の単位修得状況を正確に把握し、卒業が危ぶまれる学生に対しては、様々な方策（面接指導、補講、追加履修、追加開講等）を通じてサポートに努めました。それでもなお卒業が難しい学生に対しては、常葉大学への転入学の道筋を説明して理解を得るとともに、転入学により不利益を被ることのないよう特例措置（単位の読み替え、学納金等）

も講ずることを決定しました。その結果、年度末をもって在學生がいなくなったため計画どおり廃止することとし、所定の手続きを経て平成28年度中に廃止が認可される見通しです。

〈常葉大学短期大学部〉

i. 学科構成等の見直し

- * 日本語日本文学科（専攻科含む）及び英語英文科の廃止も含めた再編、保育科の定員減・キャンパス移転及び専攻科の廃止、音楽科（専攻科含む）のキャンパス移転のほか、短大部全体としては校舎改築計画策定の取りやめを決定しました。また、日本語日本文学科（専攻科含む）及び英語英文科の存廃については、（平成29年度の）学生募集の見通しがつき次第、平成28年度中に判断することとしました。

ii. 進路支援の強化

- * 就職意識の高揚を図るための職業適性試験の導入、各種講座内容の見直しと実施時期の適正化、就職ガイダンスの内容の充実と教職員によるバックアップ体制の向上等を通じて、学生に対する進路支援の強化を図りました。

iii. 自己点検・評価の促進

- * 平成26年度に受審した第三者評価で指摘された課題への対応を進めたほか、新たに「研究倫理規程」「動物実験に関する規程」「遺伝子組み換え実験安全管理規程」を制定しました。

〈常葉学園静岡リハビリテーション専門学校〉

i. 国家試験合格率の向上

- * 本年度末をもって廃止が予定されていることから、成績不振者に対する個別指導、専門講師及び専任教員による特別講義、定期的な模擬試験の実施等を通じて、合格率の向上に努めました。

ii. 臨床実習対策を通じた確実な知識と技術の習得

- * 外部講師による講義、ゼミ単位での実技演習、コンピテンシー診断、症例発表等の多彩な実習対策を実施し、確実な知識と技術の習得に努めました。

iii. 廃止に向けた環境整備の推進

- * 卒業のためのキーポイントであった4年次の臨床実習（必修科目）は、該当者全員が所定の実習時間をクリアし、3月をもって在學生全員が卒業しました。このことにより同校は計画どおり廃止することとし、所定の手続きを経て平成28年度中に廃止が認可される見通しです。

○ 高等学校、中学校、小学校

〈常葉学園中学校・高等学校〉

i. [高校] 一夢を実現させる学校—を目指す取り組み

- * 常葉未来手帳を活用した「知性を高める指導」、心の通う「あいさつ」の励行や常葉祭・芸術祭などの学校行事を通じた「自立心と協調性を育てる指導」、地域との交流活動やボ

ランティア活動の推進を通じた「豊かな人間性を引き出す指導」を推進しました。

ii. 【高校】基礎的基本的な知識・技能の習得とその活用力の育成

- * 「授業力向上研修」、「教科研修」及び「先進校への訪問研修」等の成果を持ち帰り、全職員が情報を共有することによってスキルアップにつなげています。

iii. 【中学】魅力ある教育活動の推進

- * 独自の国語教育（朝読書、漢検へのチャレンジ等）及び英語教育（ネイティブによる英会話教室、英単語テスト、プレテスト等）をさらに充実するとともに、特別講座（ライフスキル講座、伝統文化講座、福祉講座等）の体験を通じ、生きる力の育成と社会性を伸ばす取り組みを積極的に推進しました。

〈常葉学園橘中学校・高等学校〉

i. 【高校】人間教育の推進

- * 基本的生活習慣を身につけるためのマナーアップ教育、落ち着いた学習姿勢を定着させるための朝読書指導、校内一斉清掃・ボランティア活動、さらには部活動を通じた人間形成等を通じて人間教育の推進に取り組みました。

ii. 【高校】国際教育の推進

- * オールイングリッシュで行う英語の授業、ディベート指導・プレゼン指導、国際理解、日本文化理解等さまざまな取り組みを通じて英語のスキルアップに努めました。台湾の高校生との交流行事では、ものおじせず積極的に会話する本校生徒の姿が多く見られるなど、成果の一部が早くも現れています。

iii. 【中学】授業改善の推進

- * 全教科において「橘版観点別評価指導」を導入したほか、教科挙げての指導の徹底と研修、科・コース別責任体制の構築、ALTによる授業改善研修等を通じて、推進に努めました。

〈常葉学園菊川中学校・高等学校〉

i. 教育力向上及び進学実績の向上

- * 生徒の心を揺さぶるような授業—知的好奇心に火をつけ、やる気と主体性を引き起こす—を目指し、発見学習・体験学習・問題解決学習・調べ学習、グループワーク、プレゼンテーション等の手法を取り入れた授業実践や研修に全教職員で取り組みました。

ii. 科・コースの特徴を活かした効果的指導の実践

- * 高校では、普通コース検討委員会を新たに設け、懸案であった普通コースのカリキュラム改善に向けて検討を始めました。このほか、一貫コースを中心とした「土曜講座」や文理コースを中心とした「未来学講座」が評価され、「はごろも教育研究助成賞」や「静岡教弘教育活動奨励賞」を受賞しました。

iii. 部活動の充実

- * 運動部については、①常時全国大会への出場を目指す、②常時県・東海大会への出場を目指す、③地域に根ざした活動を継続する、カテゴリーごとにそれぞれの目的が達成できるよう支援を行ったほか、文化部に対しては年度当初に財政面での支援を行ったところ、

適切に活用されて部活動の活性化に結びつきました。

〈常葉大学教育学部附属橘小学校〉

i. 6年間を通じた教育の推進

- * 小学校の6年間を通して、少人数教育を活かした「自ら学ぶ力」、特別活動を通じた「自立する力」、道徳の時間や仲良し活動における「豊かな心」、宿泊自然教室や体育の授業を通じた「健康でたくましい体力」を身につけることができるよう授業の質をより高め、学校行事の展開にも工夫を凝らしました。

ii. 伝統をさらに磨き一人ひとりの付加価値を高める特色ある教育活動の推進

- * 丁寧な学習の基本指導、感性を磨くオーケストラ学習、コミュニケーション力を高める英語教育、情報活用能力を高める情報教育、日本文化を学ぶ書道・図書館指導等を通じて、橘小の特色ある教育活動をさらに発展させました。

iii. 教職員の資質向上

- * 経営方針の浸透と共通指導体制の確立、教育学部と連携した授業改善、自己評価を活かした自己改革、若手・中堅を育てる授業研究等を通じて教職員の資質向上に努めました。

○ 幼稚園

〈常葉大学短期大学部附属とこは幼稚園・常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園〉

i. 保育の向上

- * こども主体の保育を確立するため、年間行事や学齢による諸活動がこどもの発育に添った系統的なカリキュラムになっているのか、改めて検証しました。

また、園内研修では、教員全員の参加による保育研究を実施して一人ひとりの資質向上に努めたほか、園外研修にも積極的に参加し、他園のよさを自園にも反映させる工夫も凝らしました。

ii. 両附属幼稚園・橘小学校との連携

- * 両幼稚園との連携は、教職員は「遊び込める」をテーマに本年度3回合同研修会を実施したほか、園児は年中児と年長児がそれぞれ交流行事に参加し、リレーやゲーム等を通じて交流を深めました。

一方、幼稚園と小学校の連携では、教職員が公開保育を中心とした幼小研修会に参加しました。本年度は、新規に小学校部会を設け、小学校教員から改めて幼稚園教育に対する理解を深めてもらうよう努めました。

iii. 短大部との連携強化

- * 短大部本科生の教育実習、専攻科生の教職実践演習・研究保育、さらには短大部教員・幼稚園職員・専攻科生三者による合同研修会を通じて相互の連携を強化しました。

○ 豊田順介奨学基金

幼稚園から高等学校までの教育振興のために寄附いただいた「豊田順介奨学基金」の本年度における活用状況は、次のとおりです。

○ 中・高等学校	21件	1,966千円
○ 小学校	0件	0千円
○ <u>幼稚園</u>	<u>6件</u>	<u>507千円</u>
計	27件	2,474千円

○ 募集状況・進路状況

平成28年度入試（平成27年度実施、以下「本年度入試」という。）における学生・生徒等の志願者数は約18,000人となり、学園全体としては前年度の水準を維持することができましたが、学校種別によって大きく明暗が分かれた年度でもありました。

このうち、常葉大学の志願者は14,400人余りで、過去最高を記録した平成26年度入試（17,300人）には及ばなかったもののほぼ前年度並みで、平成25年度入試（12,500人）から4年連続して12,000人の大台を維持したほか、入学者も4年連続して大学全体の入学定員（1,680人）を確保することができました。しかしながら、全ての学部で入学定員を充足するという目標は本年度も達成できなかった反省を踏まえ、今後もステークホルダーや地域から支持を得ることのできる大学を目指して引き続き大学改革を推進することにより、所期の目標を達成することができるよう努めてまいります。

短期大学部については、高校生の強い4年制大学志向という時代の流れを踏まえ、最近の入学状況に見合った適正規模による学校運営を図るべく、日本語日本文学科、英語英文科、音楽科の3学科は入学定員を減らして臨んだ初めての入試でしたが、英語英文科と音楽科は本年度入試でも苦戦を強いられ、入学定員を大きく下回る結果となりました。反面、日本語日本文学科は、わずかではありますが久しぶりに入学定員を上回る入学者を確保したほか、幼稚園教諭と保育士の2つの資格を取得できるという強みをもつ保育科は安定した志願者を集め、本年度入試においても入学定員を上回る入学者を確保しました。

高校については、本年度入試において学園内3高校合わせて1,000人の入学者確保を目指しておりましたが、残念ながら入学者は800人を割り込んでしまいました。少子化の進展にも揺るがない安定した学校経営を期して、本年度から3年計画で「質的転換」を図るべく諸施策を講じたものの、その意図が十分にステークホルダーに伝わらなかったことが大きな要因であろうと考えられます。

中学については、菊川中学が3年続けて入学定員を確保し、同校に対する評価が定着しつつあるほか、橘中学には、学園内の橘小学校から12人もの児童が進学するなど、小中連携の効果の兆しが現れています。さらに、橘小学校については、景気の低迷などにより長らく入学定員を確保できない状況が続いておりましたが、もともと定評のあった教育内容に加え、放課後児童クラブの開設など新しい取り組みが評価され、本年度入試においては久しぶりに入学定員を確保することができました。

幼稚園については、これまで長らく募集の優等生でありましたが、ここは幼稚園は前年度に引き続き、たちばな幼稚園は本年度初めて定員を割り込むことになりました。働きながら子育てを希望する保護者が増加し、そうしたニーズが近隣の保育園やこども園に向けられていることが、幼稚園の募集状況にはっきりと現れてきました。

高校以下の学校の募集については、少子化の影響がいち早く現れている現況を踏まえ、苦戦の原因を正確かつ速やかに分析して募集計画を再構築し、計画的できめ細やかな募集活動を展開するとともに、特色ある教育活動の推進により一層工夫を凝らし、地域から支持される学校づくりに努めてまいります。

一方、進路については、学園内の大学・短期大学部の就職内定率は、すべての学校で前年度を上回る数字を残しております。各学校ともに、学生に対するキャリアサポートを最重要施策の一つに位置づけ、多様で丁寧な進路支援プログラムを提供することで、早い段階から学生が職業観や就職意識に目覚め、自らが主体的に就職活動を行ったことがこのような結果に結びついたといえます。

さらに、高等学校におきましては、多くの生徒が国公立大学、公立短期大学、専門学校への進学を果たすとともに、希望する企業等への就職を叶えておりますが、質・量ともにさらにランクアップできるよう引き続きカリキュラムの改善、キャリア支援の充実に努めてまいります。

＜別表１＞ 平成２８年度入試状況（平成２７年度実施）及び平成２７年度就職状況

(1) 大学・短大・専門学校

(平成28年5月1日現在)

学校名	学部・学科名	入学定員 (人)	入学者数 (人)	就職内定率 (%)
常葉大学	教育学部	初等教育課程	110	119
		生涯学習学科	80	87
		心理教育学科	80	97
	外国語学部	英米語学科	100	133
		グローバルコミュニケーション学科	70	74
	造形学部	造形学科	80	93
	法学部	法律学科	160	176
	健康科学部	看護学科	80	92
		静岡理学療法学科	60	70
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	79
		こども健康学科	50	51
		心身マネジメント学科	110	130
		健康鍼灸学科	30	23
		健康柔道整復学科	30	24
	保健医療学部	理学療法学科	40	38
		作業療法学科	40	37
	経営学部	経営学科（浜松）	—	150
		経営学科（富士）	—	144
		経営学科計	300	294
	社会環境学部	社会環境学科	100	115
	保育学部	保育学科	80	81
	計（就職内定率は3学部計）		1,680	1,813
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	—	—
		サービスと経営学科	—	—
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	—	—
		こども健康学科	—	—
		心身マネジメント学科	—	—
		健康鍼灸学科	—	—
		健康柔道整復学科	—	—
	保健医療学部	理学療法学科	—	—
		作業療法学科	—	—
	計		—	—
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	—	—
	社会環境学部	社会環境学科	—	—
	保育学部	保育学科	—	—
	計		—	—
常葉大学 短期大学部		日本語日本文学科	50	51
		英語英文科	40	19
		保育科	200	218
		音楽科	40	24
	計		330	312
静岡リハビリテーション専門学校		理学療法学科	—	—

※ 大学院、専攻科、留学生別科、編入学は除く

※ 短期大学部 平成28年度入学定員変更

日本語日本文学科80名→50名 英語英文科80名→40名 音楽科55名→40名

(2) 高等学校

① 入学定員及び入学者数 (平成28年5月1日現在)

学 校 名	科	入学定員	入学者数
常葉学園高等学校	普通科	240	189
常葉学園橘高等学校	普通科	340	231
	英数科	60	44
	合計	400	275
常葉学園菊川高等学校	普通科	315	280
	美デ科	60	40
	合計	375	320

入学定員変更420→340

入学定員変更80→60

②進学・就職状況

(平成28年5月1日現在)

学 校 名	卒業生数	進学者数			就 職	その他
		大 学	短 大	専門学校		
常葉学園高等学校						
常葉学園橘高等学校						
常葉学園菊川高等学校						

(5) 理事会・評議員会開催状況、監事監査実施状況

① 理事会開催状況

第1回	平成27年 4月 1日(水)
第2回	平成27年 5月23日(土)
第3回	平成27年 5月23日(土)
第4回	平成27年10月 2日(金)
第5回	平成27年12月23日(水)
第6回	平成28年 2月13日(土)
第7回	平成28年 3月20日(日)
第8回	平成28年 3月20日(日)

② 評議員会開催状況

第1回	平成27年 5月23日(土)
第2回	平成27年10月 2日(金)
第3回	平成27年12月23日(水)
第4回	平成28年 2月13日(土)
第5回	平成28年 3月20日(日)

③ 監事監査実施状況

第1回	平成27年 5月15日(金)
第2回	平成27年12月18日(金)
第3回	平成28年 3月11日(金)

3. 財務の概要

(1) 財務計画の実施状況

近年における少子化等の影響もあり、学校間の学生・生徒確保競争が激化するなど、私立学校を取り巻く経営環境は、大変厳しい状況にあります。

こうした中、本学園では、橘中・高等学校の校舎改築に加え、今後は、常葉大学及び短期大学部の新キャンパスとして取得した草薙地区に、校舎等の整備を進めることとしており、これらの大規模事業を円滑に進めるためには財務の健全化が何よりも重要であります。

①安定した収入の確保

学園全体の事業活動収入の合計（帰属収入）は、平成27年度決算で139億円余と前年度の過去最高を更新することとなりました。

この要因は、事業活動収入の6割強を占める学生生徒等納付金の増加によるものです。大学統合・学部新設初年度である平成25年度は84億円、平成26年度は89億円と順調に増加しており、平成27年度は常葉大学法学部・健康科学部の学生が3年生まで揃うことにより、学生生徒等納付金収入は93億円余を確保しました。

引き続き質の高い教育を提供して学生・生徒、保護者の満足度を高めるとともに、総合学園としてのスケールメリットを活かしながら、各学校の学生生徒等の募集活動の工夫と強化により安定した入学者の獲得を図ります。

また、学納金に次ぐ収入源である補助金収入は、平成21年度以降、毎年度20億円超を維持しており、平成27年度も21億円余を確保いたしました。

国・県の経常費補助金のほか、先進的な教育事業等に交付される特別加算枠を有効に活用するとともに、地域と連携した科学研究費補助金や受託研究費等の獲得に積極的に取り組むなど、安定した補助金収入の確保に努めているところです。

②経費の削減・効率的執行

人件費支出は、平成23年度以降増加傾向にあり、帰属収入に対する比率は60%前後となっています。これは、新学部の設置に伴う年次計画に基づいた教職員の新規採用によるもので、平成27年度は82億円となりました。

一方、教職員間に経費削減や効率的執行の意識が定着してきたこともあり、平成27年度の教育研究経費及び管理経費の支出総額（減価償却費を含む）は平成25年度実績並みの41億円となりました。

引き続き実施事業の効果を再点検し、効果が期待できない事業は抜本的な見直しを行うなど、更なる事業の効率的執行と経費節減に努めてまいります。

③施設の整備

平成27年度は、橘中・高等学校の校舎改築事業（4億8,700万円）及び常葉リハビリテーション病院の通所リハビリテーション施設建築事業（用地費・建設設計費に係る経費2千万円）の大

規模な施設整備事業を実施しました。

加えて、草薙地区に学校用地を取得し、今後は常葉大学及び短期大学部の新キャンパスとして整備を進めることとしたところであります。

こうした多額の支出に対応するため、平成23年度に第2号基本金を創設し、これまで50億円余を組み入れたところでありますが、今後とも必要に応じて積み増しして施設整備資金に充当する予定です。

④財務情報の公開

学校法人が公共性の高い法人として社会に対する説明責任を果たすことは極めて重要であることから、学校法人常葉学園財務書類閲覧事務取扱要領（平成17年4月制定）に則った情報公開を行うほか、インターネット等を活用し、常葉学園ホームページにおいて、広く一般に向けた分かりやすい財務情報の提供に努めました。

⑤学校法人会計基準の変更に伴う適切な会計処理

学校法人会計基準の一部改正に伴い、平成27年度から事業活動収支計算書の様式や勘定科目の記載方法が大幅に変更されたことから、関係する規則等の改正や会計処理システムの改修に取り組み、平成27年度当初から新基準に対応した予算編成、会計処理及び計算書類の作成など適切な会計処理に努めました。

(2)資金収支計算書

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで
(単位：百万円)

(収入の部)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	9,347
手数料収入	231
寄付金収入	97
補助金収入	2,172
資産売却収入	2
付随事業・収益事業収入	1,460
受取利息・配当金収入	103
雑収入	565
借入金等収入	285
前受金収入	1,793
その他の収入	3,439
資金収入調整勘定	△ 2,419
(当年度収入合計)	(17,075)
前年度繰越支払資金	7,519
収入の部合計	24,594

(支出の部)

科 目	金 額
人件費支出	8,235
教育研究経費支出	1,763
管理経費支出	1,008
借入金等利息支出	9
借入金等返済支出	106
施設関係支出	4,349
設備関係支出	239
資産運用支出	2,366
その他の支出	786
〔予備費〕	0
資金支出調整勘定	△ 1,036
(当年度支出合計)	(17,825)
翌年度繰越支払資金	6,769
支出の部合計	24,594

(3) 活動区分資金収支計算書

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで

(単位：百万円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収 入	学生生徒等納付金収入	9,347
		手数料収入	231
		特別寄付金収入	8
		一般寄付金収入	77
		経常費等補助金収入	2,152
		付随事業収入	1,460
		雑収入	565
		教育活動資金収入計	13,840
	支 出	人件費支出	8,235
		教育研究経費支出	1,763
管理経費支出		1,008	
教育活動資金支出計		11,006	
差引		2,834	
調整勘定等		13	
教育活動資金収支差額		2,847	
施設整備等活動による資金収支	収 入	施設設備寄付金収入	13
		施設設備補助金収入	19
		施設設備売却収入	1
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	200
		施設整備等活動資金収入計	233
	支 出	施設関係支出	4,349
		設備関係支出	239
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	904
		施設整備等活動資金支出計	5,492
	差引		△ 5,259
調整勘定等		424	
施設整備等活動資金収支差額		△ 4,835	
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		△ 1,988	
その他の活動による資金収支	収 入	借入金等収入	285
		退職給与引当特定資産取崩収入	568
		財政調整資金引当特定資産取崩収入	1,629
		奨学資金引当特定資産取崩収入	61
		研究奨励資金等引当特定資産取崩収入	69
		預り金受入収入	337
		その他資産回収収入	2
		保証金受入収入	1
		仮払金回収収入	0
		有価証券繰入収入	100
		小計	3,052
		受取利息・配当金収入	103
		その他の活動資金収入計	3,155
	支 出	借入金等返済支出	106
		有価証券購入支出	303
		退職給与引当特定資産繰入支出	597
		財政調整資金引当特定資産繰入支出	504
		奨学資金引当特定資産繰入支出	57
		積立保険料支出	0
		協会等預け金支出	0
		預り金支払支出	341
		仮払金支払支出	0
		小計	1,908
	借入金等利息支出	9	
	その他の活動資金支出計	1,917	
	差引		1,238
その他の活動資金収支差額		1,238	
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		△ 750	
前年度繰越支払資金		7,519	
翌年度繰越支払資金		6,769	

(4) 事業活動収支計算書

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで
(単位：百万円)

		〔単位：百万円〕	
教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	金 額
		学生生徒等納付金	9,347
		手数料	231
		寄付金	85
		経常費等補助金	2,152
		付随事業収入	1,460
		雑収入	565
		教育活動収入計	13,840
	事業活動支出の部	人件費	8,283
		教育研究経費	2,975
		管理経費	1,165
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	12,423
教育活動収支差額		1,417	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	103
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	103
	事業活動支出の部	借入金等利息	9
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	9
教育活動外収支差額		94	
経常収支差額		1,511	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	1
		その他の特別収入	51
		特別収入計	52
	事業活動支出の部	資産処分差額	11
		その他の特別支出	0
		特別支出計	11
特別収支差額		41	
〔予備費〕			
基本金組入前当年度収支差額		1,552	
基本金組入額合計		△ 4,464	
当年度収支差額		△ 2,912	
前年度繰越収支差額		△ 5,237	
基本金取崩額		371	
翌年度繰越収支差額		△ 7,778	
(参 考)			
事業活動収入計		13,995	
事業活動支出計		12,443	

(5) 貸借対照表

平成28年3月31日

(単位：百万円)

科 目	金 額
資産の部	
固定資産	53,470
有形固定資産	41,937
特定資産	10,339
その他の固定資産	1,194
流動資産	9,153
現金預金	6,769
その他	2,384
資産の部合計	62,623
負債の部	
固定負債	3,910
長期借入金	2,403
退職給与引当金	1,477
長期未払金	30
流動負債	3,282
短期借入金	182
未払金	1,021
前受金	1,805
預り金	274
負債の部合計	7,192
純資産の部	
基本金	63,209
繰越収支差額	△ 7,778
翌年度繰越収支差額	#REF!
純資産の部合計	55,431
負債及び純資産の部合計	62,623

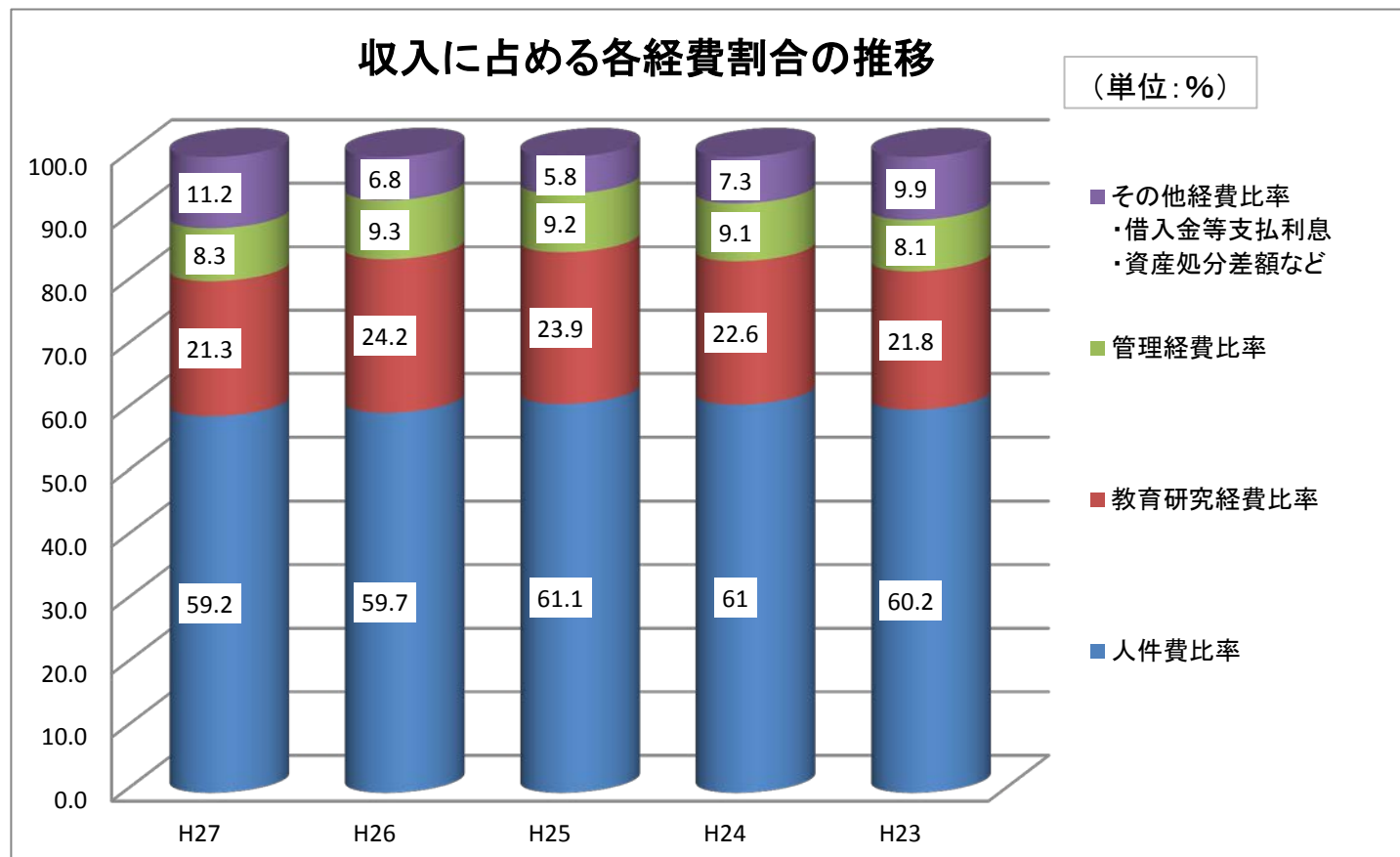
(6) 主な財務比率比較 (旧学校法人会計基準ベースでの計算)

改正学校法人会計基準の適用により、平成27年度計算書類が一部変更になったため、そのままでは経年比較できないことから、平成27年度実績を旧基準に置き換えております。

(単位：%)

比率名	算 式	(注)	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△	11.1	6.7	4.9	6.9	7.2
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▽	130.6	103.3	139.0	113.2	105.4
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	66.8	66.8	66.1	64.3	64.4
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▽	59.2	59.7	61.1	61.0	60.2
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	21.3	24.2	23.9	22.6	21.8
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▽	8.3	9.3	9.2	9.1	8.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	278.8	370.6	309.9	288.6	379.8
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	▽	13.0	11.9	12.3	12.4	9.5
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	△	88.5	89.4	89.1	89.0	91.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	95.7	103.2	101.8	95.7	98.0

(注) △：高い値の方がいい ▽：低い値の方がいい —：どちらとも言えない



総負債 : 固定負債＋流動負債
 自己資金 : 基本金＋消費収支差額
 総資金 : 負債(他人資金)＋基本金(自己資金)＋消費収支差額

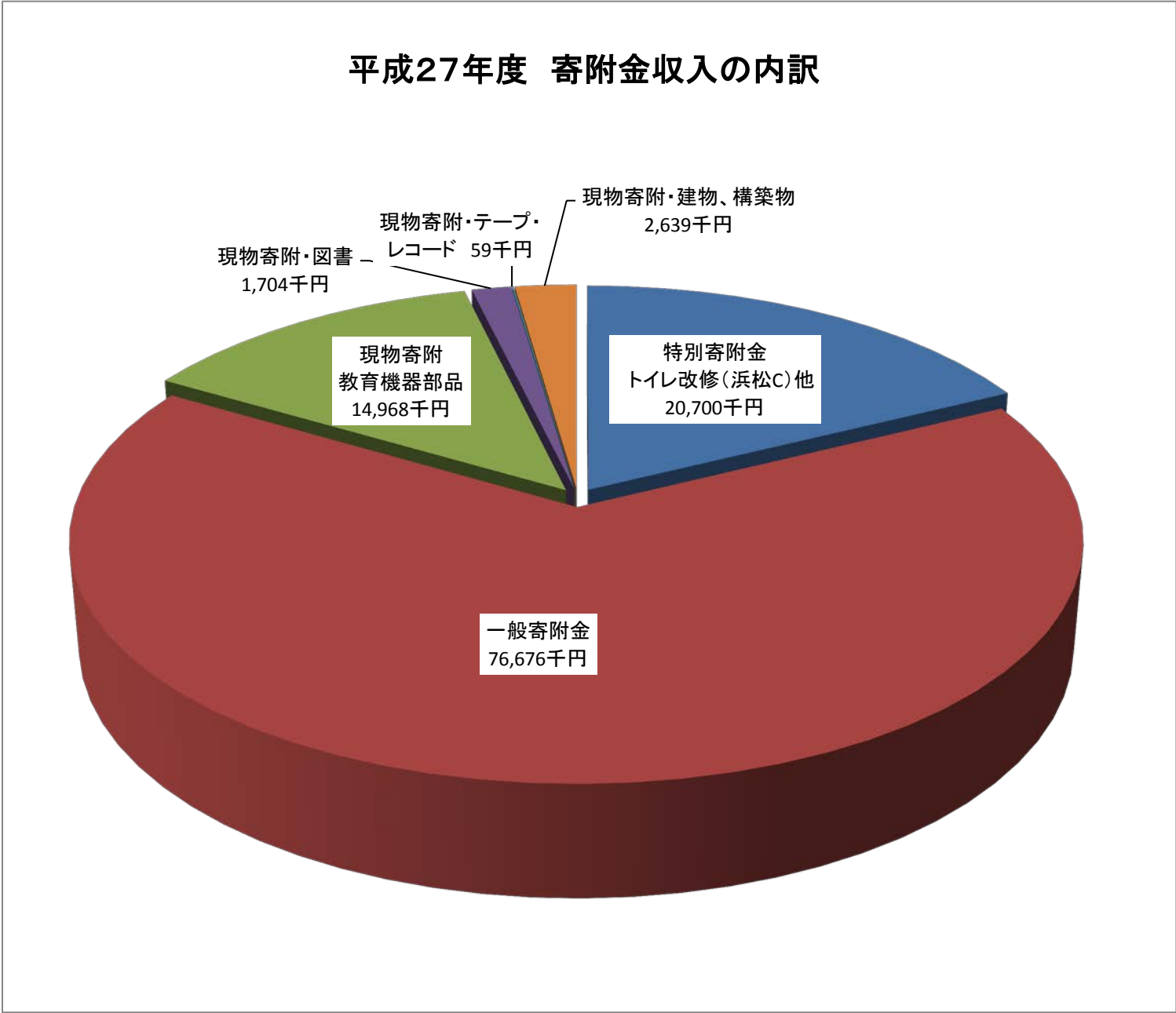
(7) 借入金の状況

借入先	借入金額(千円)	借入残高(千円)	利率(%)	返済期限	担保等
日本私立学校 振興・共済事業団	1,000,000	166,650	2.2	平成30年9月	土地、建物
	320,000	213,240	2.1	平成39年9月	土地、建物
	236,000	222,870	0.5	平成44年9月	土地、建物
	344,000	324,870	0.5	平成44年9月	土地、建物
	762,000	762,000	0.5	平成45年9月	土地、建物
	610,000	610,000	0.5	平成45年9月	土地、建物
	285,000	285,000	0.5	平成47年9月	土地、建物
合計	3,557,000	2,584,630			

(8) 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額(円)	摘要
特別寄付金	常葉大学浜松キャンパス後援会・学友会	5,000,000	校舎2号館トイレ改修工事
特別寄付金	常葉大学浜松キャンパス同窓会	6,000,000	通学バス購入費
一般寄付金	常葉大学浜松キャンパス後援会、学友会	18,000,000	通学バス運営管理委託費
一般寄付金	常葉大学浜松キャンパス学校行事支援設備整備会計	5,000,000	通学バス運営管理委託費

* 300万円以上の寄付金を記載



（９）補助金の状況

私立大学等経常費補助金については、4大学合計で7億18百万円余、静岡県私立学校
経常費補助金(専門学校、高中校、小学校、幼稚園が対象)については、10校合計で
13億58百万円余の交付を受けています。合計は20億7,671万円です。

